Vene Investment

Venezuela Weekly Report

No.４０１　２０２５年４月９日（水曜）

（写真）Tal Cual　“カプリレス元ミランダ州知事　新野党グループ「Red Decide」の発足を発表”

カプリレス元知事の野党連合

株式会社ベネインベストメント
松浦　健太郎

２００８年～１７年までミランダ州知事を務め、１２年、１３年の大統領選で野党統一候補として故チャベス大統領、マドゥロ大統領と対決したエンリケ・カプリレス元知事が新たな野党グループ「Red Decide」の発足を発表した。

現在の野党主流派で組織する「統一プラットフォーム（PUD)」が選挙ボイコットを呼びかける中、「Red Decide」は選挙参加を呼び掛けており、野党主流派と根本的に方針が異なるグループになる。
本稿では「Red Decide」の発足がベネズエラにどのような影響を与え得るかについて考察したい。

カプリレス元知事による野党主流派への挑戦

４月２日　カプリレス元知事は、選挙参加を志向する野党政党・政治家らで構成される新しいグループ「Red Decide」の発足を発表した（「ベネズエラ・トゥデイ No.1199」)。

カプリレス元知事は、主要野党の一角「第一正義党（PJ)」のリーダーの１人。
その PJ は野党主流派の「統一プラットフォーム（PUD)」に属しており、野党のリーダーであるマリア・コリナ・マチャド氏（以下、MCM）の方針に沿って選挙ボイコットを呼びかけている。

つまり、カプリレス元知事の「Red Decide」発足は、現在の野党主流派 PUD への挑戦と言える。

野党主流派　袋小路に入り、先見えず

２０２４年７月２８日の大統領選まで野党のリーダーは間違いなく MCM 氏だった。

この大統領選は、票操作が行われたとの疑念が強いものの、結局 MCM 氏率いる野党主流派は票操作が行われたという確固たる証拠を提示することは出来ず、現在もマドゥロ政権がベネズエラ政府として統治を続けている。

MCM 氏は「国民が下した信託を実現させる途中」と主張しており、政権交代を諦めていないようだが、今もこの主張を信じている人は少数だろう。

また、MCM 氏率いる野党主流派は、「５月２５日の国会議員選・州知事選に参加することは、２４年７月２８日の大統領選への関心を逸らす行為」と主張しており、支持者に対して５月２５日の選挙に参加しないよう呼び掛けている。

つまり、野党主流派は政権交代が実現できないまま、今後の選挙への参加を拒否しており、自らを袋小路に追い込んでいる。

MCM 氏率いる野党主流派が、この状況を打開できるとすれば、米国政府の協力が必要だが、トランプ政権の対応は冷たい。

トランプ政権はマドゥロ政権に高圧的であるものの、それは「野党を支援するため」あるいは「ベネズエラの政権交代のため」ではなく、「米国の利益のため」であることは明白。

トランプ政権の１期目（１７～２０年）と２期目の野党に対する対応は全く異なっている。

① 「国際開発庁（USAID)」によるベネズエラ野党への援助金停止
② 米国に滞留するベネズエラ移民の国外追放
③ 犯罪組織「Tren de Aragua」を介したベネズエラ人のネガティブイメージの拡散

など反ベネズエラ的な政策はその一例だろう。

２０１７年当時、トランプ政権による経済制裁は、「ベネズエラに民主主義を取り戻すため」という建前だったが、現在のトランプ政権は「ベネズエラ人不法移民の送還を促進するため」の圧力ツールとして使用している。

また、トランプ政権は、ベネズエラで５月２５日に予定されている国会議員選・州知事選について全くコメントしておらず、ベネズエラの内政問題や民主主義に無関心な印象が強い。

今の状況を見る限り、トランプ政権がベネズエラ野党のために何らかの行動を起こす可能性は低いと言わざるを得ない。

Red Decide　選挙参加を志向

筆者の認識では、野党主流派が現在の方針を継続してもその先には彼らにとって明るい未来はない。

このような政治的な背景の中で、「Red Decide」が発足した。

「Red Decide」の正式名称は「Red Defensa Ciudadana de la Democracia」。
単語の最初の文字を切り取って「Decide」と省略している。日本語で言えば「民主主義の市民擁護ネットワーク」だろう。

前述の通り「Red Decide」は、５月２５日の国会議員選・州知事選への参加を志向する野党政治家らで構成されるグループ。

「新時代党（UNT)」「社会主義行動党（MAS)」など野党主流派に属していた政党に加えて、独立野党の「未来党（FUTURO)」や「隣人の力（FV)」なども合流している。

野党主流派「統一プラットフォーム（PUD)」が停滞気味であるのに対して、Red Decide は今後も勢力拡大が予想され、将来的に Red Decide が PUD に代わる野党の主流派になる可能性がある。

５月の選挙での躍進は望み薄

ただし、Red Decide が短期的に躍進すると考えるのは楽観的だろう。

筆者は、Red Decide に属する野党政治家は、５月２５日の国会議員選・州知事選に参加するが、与党に大敗すると考えている。

前回の州知事選は２０２１年に実施された。
当時の州知事選は、主要野党が一丸となって投票を呼び掛けたが、野党は大敗を喫した（「ウィークリーレポート No.227」)。

一方、今回の選挙は野党の主流派が選挙ボイコットを呼びかけている中、一部の野党勢力が出馬する状況。野党支持者の票が伸び悩むため、野党候補者が与党候補者に勝てる見込みは低い。

今回の州知事選の目標は、現在野党が州知事を務めている州（スリア州、コヘーデス州、バリナス州、ヌエバエスパルタ州）で勝利すること。
もしカプリレス元知事が選挙に出馬できるとすれば、ミランダ州選で勝利したいところだ（「ベネズエラ・トゥデイ No.1199」)。

また、（かなり野心的な目標だが）国会議員選は野党候補が１／３超の議席を獲得できたとすれば大成功と言えるだろう。

Red Decide の見据えるべきは次期大統領選

実際のところ Red Decide が見据えるべきは５月の選挙ではない。２０３０年の大統領選である。

Red Decide の真の目標は、今後５年超の間に野党主流派を超えるグループになり、勢力図を書き換えることである。

筆者は MCM 氏が今後５年間、野党のリーダーであり続ける可能性は低いと考えている。

「大衆意思党（VP)」のレオポルド・ロペス党首やグアイド元暫定大統領がそうであったように、一時は国民から強い支持を受けた人物であっても、政権交代が実現できないままリーダーの座に留まろうとすれば、２～３年で国民から嫌われる存在になる。

今の流れが続けば、MCM 氏はロペス党首やグアイド元暫定大統領と同じ道をたどり、リーダーシップを失うことになるだろう。

その時にカプリレス元知事が野党のリーダーを引き継ぐのは妥当なシナリオだろう。

Red Decide は経済制裁に反対

様々な意見があるだろうが、筆者は Red Decide の発足を歓迎している。

現在の野党主流派は、選挙ボイコットを掲げ、米国による経済制裁強化を支持している。

一方、カプリレス元知事は、選挙参加を求め、経済制裁を拒絶している。UNT のロサレス党首、ヘス・トーレアルバ氏（野党連合の元幹事長）、ラモン・アベレド氏（野党連合の元幹事長）、ウラディミール・ビジェガス氏（元与党幹部のジャーナリスト）など Red Decide の主要メンバーも米国の経済制裁を批判している。

将来、Red Decide が現在の野党主流派に代わる存在になれば、マドゥロ政権も野党も経済制裁を拒否することになる。

そうなると「ベネズエラの民主主義を守るため」という経済制裁の建前が成り立たなくなり、制裁は正当性を失う。

トランプ大統領であれば、無視しそうなものだが、トランプ政権は２０２８年で終了する（米国の憲法上、大統領３期目は不可能）。

２０２９年、３０年はトランプ大統領ではない別の人物が米国の大統領になっているはずだ。

この時、新たな米国大統領はカプリレス元知事率いる Red Decide の要請に応じる可能性がある。

特に２０２９年は、翌年にベネズエラの大統領選を控えており、与野党協議に弾みを付けるため、制裁を解除するインセンティブは高い。

過激派からの方針転換に期待

また、MCM 氏が野党のリーダーになったことも長い目で見て野党にとって良かったのかもしれない。

２１年に筆者は「野党の状況整理」というレポートを作成した（「ウィークリーレポート No.200」）。

４年前のレポートなので状況は変わっているが、基本的な野党の構造は今も同じ。

このレポートでも触れているが、野党は常に３人の政治家が権力を争っていた。

１人目は「第一正義党（PJ）」のエンリケ・カプリレス元知事。
２人目は「大衆意思党（VP）」のレオポルド・ロペス党首。
３人目は「Vente Venezuela（VV）」のマリア・コリナ・マチャド党首。

カプリレス元知事は、２０１２年、１３年の大統領選で敗北し、その後求心力を失った。

ロペス党首は、２０１４年の抗議行動、１９～２２年のグアイド暫定政権（グアイド議長は VP の政治家で実質的にロペス党首が主導）の失敗で支持を失った。

そして、MCM 氏は２０２３年の予備選での勝利を機に野党のリーダーになったが、２４年の大統領選で政権交代を実現できなかった。現在は支持を徐々に失う過程にあると言える。

おそらくロペス党首と MCM 氏が野党のリーダーになり、政権交代に失敗しなければ、カプリレス元知事に再びリーダーの座が回ってくることはなかっただろう。

ロペス党首、MCM 氏はマドゥロ政権との対立を志向する過激派だが、カプリレス元知事は対話を志向する穏健派である。

カプリレス元知事がリーダーになれば、野党はこれまでと違ったアプローチでマドゥロ政権と対峙することになるだろう。

それが良い方向に進むのか、悪い方向に進んでしまうのかは不明だが、現在の状況が続くよりも悪くはないと想像している。

以上